

米山奨学ボックス

青木 省一君 ボックスに協力

今井 克義君 臨時収入がありましたのでBOXへ

山本 賢君 米山奨学にご協力を



卓 話

岡田大介会員 「自己紹介」



折角、卓話の機会を頂きましたので、自己紹介させていただきます。

私は18年前まで、十数年 劇団東京芸術座というところで俳優をしておりましたので、そのお話しをさせていただきます。

東京芸術座は、築地、新築地、新協劇団と続く、日本で一番古い劇団で、村山知義という 演出家、舞台装置家、絵本・童話作家で、大正・昭和の代表的演劇・文化人により、創立され、300人近い劇団員を擁し、文学座、民芸、俳優座と並び、4台劇団と言われた劇団です。劇団の代表作の中から「蟹工船」と「どん底」を紹介させていただきたいと思えます。

「蟹工船」は、1928年10月28日からかきはじめて、翌年の3月30日に完成しています。いまから80年前の、小林多喜二が25歳のときの作品です。

この作品は、そのころ北洋漁業の監獄部屋といわれていた蟹工船漁業の実態をくわしく調べて書いたものですが、大体、1926年頃に実際にあったことを題材にして書かれています。蟹工船は、缶詰工場の設備を備えた工船です。

物語は、

昭和のはじめの頃...

食い詰めて“自分を売る”よりしかたがなくなった男たちが、函館の港に集まってきた。

蟹工船・博光丸も駆り集められた漁夫や見送り人たちでごった返している。

出向した博光丸はボロ船で、カムチャッカの荒れる海の中、メリメリと音をたてて鳴っている。

蟹工船は航海法も工場法も適用されず、水産会社の意のままに作業生産できる。会社の命を受けた監督・浅川は鮭殺しの棒を振り回し、大声で訓示した。「この蟹工船の事業は単に一会社の儲け仕事ではなく国際的問題なんだ」事実、蟹工船の船団には、帝国海軍が護衛についていた。

漁夫・雑夫たちは、重労働とボロボロ飯で、身体を悪くした。何人もの漁夫が、この北の海で死んだ。「このままでは殺される」...

漂流した川崎線が、ソヴェト・ロシアから帰ってきた。その新しい国の話しは「吸取紙に吸われるように」漁夫たちの心に染み込む。

「利潤！」会社には、利潤以外のものは目に入りもしない。病人でも働かされ、労働時間は勝手に延ばされ、水夫・火夫まで作業に狩り出された。

中積み船で視察にきた会社重役に労働のひどさを訴えた学生が、浅川の手下に殺された。

海は大時化、だが、出漁命令が下った。おっかなびっくりサボが始まった。そして、ついに、彼らは自分達の力でストライキを起こし、“要求”を突き出した。浅川のモーゼル銃が火をふいた時、誰かが叫んだ。「駆逐艦が来たぞう！守り神だ！」...だが、踊りこんできた水兵達は着剣し顎紐をかけていた。帝国海軍は、労働者達を弾圧し、逮捕していった。漁夫達は敗れた。

しかし、彼らは「敵」をはっきり知った。

彼らの怒りは強く、深く、大きかった。

「ん、もう一回だ！」

彼らは立ち上がった————もう一度。

（どうやって漁船が揺れて見えるかと言うお話をさせて頂きました）

「どん底」は19世紀末から20世紀初頭にかけて、帝政ロシアでは社会的変動の徴候がさまざまな形であらわれた。幾度にもわたる飢饉と無能な専制政治は、ロシア史上かつてない深刻な飢餓と恐慌状態をつくった。餓死線上にさまよう者は三千万人を越し、農民は群をなして都市へ流れ込み、街には失業者が溢れ、何百万人も人間が貧民窟に落ち込んでいった。

それと共に、農民一揆や労働者のストライキ、集会など、大衆の人間的諸権利を回復しようとする闘いが次第に高まり、やがて、日露戦争の最中に始まって、戦争終結直後に勃発する1905年のロシア第一次革命に発展する。

ゴーリキイは来るべき未来を予感しつつ、1901年に叙事詩「海燕の歌」を発表し、最初の戯曲「小市民」を完成させ、「どん底」を寄稿する。哲学的かつ全人間的テーマを謳い上げたこの世界的は1902年の作であった。

舞台となるのはヴォルガ川沿岸の都市貧民街にある洞穴のような半地下室の木賃宿。ここには様々な運命にもてあそばれ、社会から

弾き飛ばされた人々がたむろしている。

そんなところへ巡礼のルカが現れる。

“夜でも昼でも牢屋は暗い・・・”夜になると、一同は大声で唄いながら賭博のカードに熱中する。（中略）ルカは姿をくらます。

「あの男は嘘を言った。だが、それは思いやりから出た嘘だ」「嘘は奴隷と君主の宗教だ 真実 は 自由な人間の神だ」「人間、素敵なものだ。実に荘重な音がするね」「すべての始めとすべての終わりとはこの内に含まれているすべてのものは人間に内にある」「人間は尊敬すべきものだ 同情などで侮蔑すべきものじゃない。人間の健康のために祝杯をあげよう」

ルカの慰めの哲学は根底において人間の可能性に不信を持っており、尊厳を叫ぶ思想は現実の変革を希求する人間の新しい発展の芽であった。

（一人の俳優の演技により、それまでの解釈と大きく変わった... というような事をお話しさせて頂きました）

「ベニスの商人」（シェイクスピア）のシャイロックを悪徳高利貸しと描くか、差別対象のユダヤ人として描くか等、よく描かれている作品は解釈も自由となる。

・・・おもしろい・・・

とりとめもないお話で申し訳ありませんでした。次回の卓話の機会はないものと考えております。

上市ロータリークラブ（富山県）

平野泰孝様

毎月1回当クラブを訪問して頂き
ありがとうございます。

